

## 耕作放棄地の再生事業

7月6日、船越北町会で、耕作放棄地の除草作業が行われました。



地元の住民と企業、行政との協働でスタートした「耕作放棄地の再生」事業も、今年で3年目。この日は地元住民など約30人が集まり、早朝より除草作業を開始しました。

今春に設置した緑化ハウスのゴーヤも勢いよく成長し、除草作業と合わせ、きれいに整えられました。

この後、8月に用水溝の整備とソバの作付けを予定しているそうです。秋のソバ収穫後には、収穫祭を開催してソバを振る舞い、協力してくれた方たちの慰労と地区の連携を図りたいと話してくださいました。

長年放棄された耕作地は鳥獣のすみかとなり、その鳥獣が畑や庭先を荒らすなど近隣住民に被害が出ています。船越北町会の取り組みは、鳥獣被害に悩む他地区の解決策の参考になるのではないのでしょうか。

## 浅間の火祭り



Town Topics  
まちの話題



7月20日、奈良瀨町の浅間山で「浅間の火祭り」が行われました。

この火祭りは、約千年前、藤原秀郷一族が威勢を誇示するために山上で火を焚いたのが始まりといわれており、佐野市無形民俗文化財にも指定されています。

辺りが暗くなり始めた午後7時すぎ、標高192メートルの山頂で神主が無病息災、五穀豊穡を祈願した後、やぐらに火がともされると、参加した皆さんは、その火を松明に移し、慎重に山を下りていきました。ふもとからみた浅間山には、松明の明かりが連なり、ゆらゆら揺れていました。

## 消防救助技術大会 関東地区指導会出場



佐野地区広域消防組合の大山征成消防副士長、石塚祐樹、黒田恭佑、長達也、松村亮の各消防士、計5人が横浜市で開催された第42回消防救助技術大会関東地区指導会に出場しました。

5人は6月に行われた「第39回栃木県消防救助技術大会」団体種目「引揚救助」で優勝し、この種目で佐野地区広域消防組合として初めて関東大会出場切符を手に入れました。

出場するにあたり、チームリーダーの大山さんは「市民の生命財産を守り、安全・安心の最後の砦として、そして支えてくれている160人の仲間への感謝の気持ちを胸に、精一杯頑張ってきます」と力強く話してくれました。

## 楽習講師企画講座

### 「田中正造没後100年を迎えて」

7月7日以降毎週日曜日に全4回、郷土博物館で開催されました。

初回は「田中正造旧宅ボランティア」の矢島俊雄さんを講師に迎え、「青年正造の考えていたこと」をテーマに行われました。



この日は、正造の生い立ちから始まり、小中村で名主を務めていたころや堀米村で手習塾を開いていたころの正造、そして、江刺県（現在の岩手県東部・北西部、秋田県北東部）の役人を務めていたころの正造のことが、当時の時代背景と共に話されました。

これまで知られてこなかった正造の青年期の話に、参加者は頷きながら聞き入っていました。



7月7日、文化会館で、さの市民討議会2013が開催されました。

討議会は(社)佐野青年会議所が主催、市の共催で2010年から年1回行われています。「未来をつくろう・あなたの声で」をスローガンに掲げ、無作為で選ばれた市民の方が、さまざまな課題を討議します。

今年の課題は、「中心市街地の現状と空家の問題点」「中心市街地にある空家の活用」の2つ。午前と午後の2部構成で、参加した市民50人が10班に分かれ、各班ごとに問題把握と解決策を導き出し、その成果を発表しました。

各班とも限られた時間内で活発に議論を交わし、有意義な提案があげられました。参加した方は「何となく参加したが、討議が進むうち、自ら考え、積極的に意見を出している自分がいた。また参加したい」と話していました。

## クールアースデー & ぱるぼーと3rdアニバーサリー



7月7日、佐野駅前交流広場周辺で「クールアースデー2013 in SANŌ」と「ぱるぼーと3rdアニバーサリー」が開催されました。

クールアースデーは、地球環境への関心を高めることを目的に佐野市環境ネットワーク会議が企画・開催し、温暖化防止の取り組みや省エネ活動などを紹介しました。

会場ではソーラークッカーなどの展示や、さまざまな工作などの体験コーナーが設けられ、多くの方がイベントを楽しみました。

また、佐野駅前交流プラザ「ぱるぼーと」の3rdアニバーサリーでは、パフォーマンスや佐野市出身のミュージシャンによるコンサートが行われました。

午後6時過ぎには、廃油で作ったエコキャンドルに点火。キャンドルが彩る夕暮れに、会場は幻想的な雰囲気になりました。



### 尖ったところを ノメンドという

表面が滑らかで、つるつるすべることを、共通語では、「ぬめる」または「ぬめくる」といいますが、佐野方言では、これが訛(なま)ってノメルとかノメクルなどといいます。

「坂道を下りてツタラ、ツルリリ(つるつと)ノメツ(ノメクツ)てさあ、仰向けに「デングルケツチャタ(倒れてしまった)ンだよ」

すべりやすくつるつるしている状態を表す語には、ノメツコイ、ナメツコイがあり、訛(なま)ってノメツケー、ナメツケーともいいます。

「赤ちゃんの肌(はだ)を触(さわ)ってみな。きめが細かくつて、マツサカ(とても)ノメツケーから」

ぬめるの「ぬめ」と同じように、ノメツコイ、ナメツコイの「ノメ」「ナメ」にも、つるつる、なめらか、すべすべという意があり、この語が新しい方言を生み出しました。物(もの)杭(くい)や棒(ぼう)などの先端(せんたん)を尖(とが)らすと、その部分(ぶぶん)がすべすべになり、たやすく地面(じめん)に打ち込(うちこ)めることから、田沼(たぬま)地域(ちいき)や葛生(かぶら)地域(ちいき)では、その先端(せんたん)をノメまたはノメンド(下(した)は「所(ところ)」の意)といっています。

「杭(くい)の先(せん)つちよをノメンドにしネーと、地面(じめん)がカテー(堅(かた)い)から、簡単(かんぱん)にはツットサンネカンネ(突きささささないからね)」

野上(のの)・作原(さくはら)地域(ちいき)では、棒(ぼう)の端(は)を尖(とが)らせることを、ノメツケル(ノメを付ける)が語源(ごげん)をいいます。でも、今(いま)では死語(しご)に近い語(ご)となっています。

(市民記者 森下喜二)

